

養老あじさいが霧（もや）で霞む上総牛久。

南の空が真っ黒な雲に覆われていた。

大きくうねる真っ黒な雲の合間から時折目をしかめる程の稲妻が光る。

真っ黒な雲は大きく畝（うね）りながらゆっくりと形を変えていく。

遠くの山の樹々が風にあおられ、右へ左へと大きく揺れているのがよく見える。

心做しか青々とした稲が右へ左へ小さく揺らいている。

大きくうねる真っ黒な雲は光を放ちながらゆっくりと渦を巻きはじめた。そして、吸い込まれるかのように山向こうに消えた。

あの真っ黒な空が嘘のように目をしかめる程の眩しい陽が稲を喜ばし、あじさいを照らした。

秋も深まり、黄金色に輝く稲穂。

その上を無数の鴨が南の空に向かって飛んで行く。

次々と山向こうの南の空へ。

これほど多くの鴨を見た事があっただろうか。

気になった。

気になる気持ちを抑えきれず、南の山向こうへ向かった。

一里と少し歩いただろうか？

目を疑う光景に足が自然と止まった。

水面を泳ぐ多くの鴨（加茂）と大きな湖。

田園が広がるその土地は大きな湖にすっかり変貌していた。

あの時の大きくうねる真っ黒な雲がそうしたのか。

湖底には光を放ちながら大きくうねる何かが見えた。

あまりの大きさにそれを確認する事は到底出来ない。それよりも

不思議な事にその光を見ると何とも言えぬ安心感を覚えた。

大きくうねる真っ黒な雲はひかり大蛇に姿を変え、霧で霞む養老あじさいの季節、養老川の氾濫を抑えていたのだ。

高滝湖に棲む ひかり大蛇

私たちの暮らしを山向こうから見守る守神。

「上総牛久（かずさうしく）“牛久ひかり大蛇”新伝説」

解説

靄で霞む季節に起きていた養老川の氾濫を「ひかり大蛇」の神が高滝に湖を造り、上総の暮らしを守るという新伝説。

- | | |
|--------------------|--|
| ■養老あじさい | 上総地区の水無月（6月）、季節を意味する。 |
| ■南の空 | 牛久から見た南。高滝、養老溪谷方面を指す。 |
| ■真っ黒に大ききうねる雲 | ひかり大蛇の原形を意味する。 |
| ■山の樹々が風にあおられるが見える。 | 決して遠くない牛久と高滝の間の山の位置を表現する。 |
| ■山向こう | 高滝を意味する。 |
| ■鴨が南の空へ | 河川、湖に住む鴨は溪流には住まない。何故その鴨が高滝、養老溪谷方面へ向かうのか？それは高滝に湖が出来た事を意味する。 |
| ■湖底にうねる何か | 「あまりの大きさ・・・」と共に巨大な大蛇が棲む事を意味する。 |
| ■何とも言えぬ安心感 | 湖が出来た事で養老川の氾濫から解放された事が「安心感」と繋がる事を意味する。 |